2023年度事業報告書

自　2023年 4月　1日
至　2024年 3月 31日

＜目的及び事業＞　＊　定款　第3条･第4条より

（目的）
第3条　この法人は、優秀でありながら経済的理由により修学が困難な、日本国内で学ぶ大学生･大学院生に対する奨学金の貸与･給付及び留学生に対する奨学金の給付を行うとともに、育英に関する調査研究･情報提供、大学生等の人材育成活動に対する助成事業を行い、もって社会を牽引する人材を育成することを目的とする。

（事業）
第4条　この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。
（1）日本国内で学ぶ大学生･大学院生に対する奨学金の貸与･給付及び留学生に対する奨学金の給付並びに奨学生に対する指導･助言
（2）育英に関する調査研究･情報提供事業
（3）大学生等の人材育成活動助成事業
（4）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

Ⅰ．事業の状況

1. 大学生への奨学金支給事業　＜公益事業1＞

（1）大学奨学生の採用人数（2023年4月入学）と奨学金給付

2022年に高校時予約採用した99名のうち86名（現役合格率86.9%）および2021年予約採用の一浪生15名のうち15名が、2023年4月に当財団指定大学への入学を果たし、計101名が大学奨学生として正式採用となり奨学金給付を開始。
（男性42名･女性59名／文系54名･理系46名･芸術系1名／国立70名･公立8名･私立23名）

＜大学奨学生数の採用数推移＞

（人数は採用時の数値のため現在時点の学年毎の在学者数とは異なる）

年度	人数
2020年度採用／大学4年生	88名
2021年度採用／大学3年生	89名
2022年度採用／大学2年生	99名
2023年度採用／大学1年生	101名
2020年度採用～2023年度採用合計	377名

※大学奨学生は、375名（辞退2名）と2019年以前の採用者5名を合わせて380名となった。

なお、2023年度の大学奨学生への奨学金給付金額（入学一時金・受験等助成金を含む）は、3億5,762万円となった。

（2）海外留学・活動支援制度について

奨学生が広い視野を持ち、将来、グローバルに活躍できる人材として成長する一助となることを目的に2014年度に支援制度を開始。2020年度4月より奨学生の留学経験の促進を図るべく長期留学への支援などを充実。また、2021年度よりオンライン留学に対しても支援できるよう制度を拡充した。さらに、2023年度は円安による留学費負担増に対応して支援金の増額の制度改定を行った。

2023年度は海外渡航制限緩和により利用者が延べ68件に増加し、費用は2,052万円であった。

（3）大学貸与奨学生について

大学貸与奨学生については、2010年度に募集・採用が終了し、2015年度から貸与奨学金の支給はしていない。
2023年度返還金額は14,301,800円であり、1,952,000円の貸倒処理を行った結果、2024年3月末時点の貸与奨学金残額は21,197,980円（返還残奨学生　42名）となった。
返還状況は次頁の別表の通り。

2. 大学院生への奨学金給付事業　＜公益事業1＞

(1)大学院奨学生の採用人数(2023年4月入学)と奨学金給付

2023年度の大学院奨学生には41名が応募し、選考委員による書類選考およびオンラインでの面接選考を経て41名を内定とした。その後、4名は内定を辞退(2名は就職を選択、1名は大学院試験不合格、1名は休学及び病気療養により院試受験せず)。受験の結果、2023年度4月の大学院奨学生37名を正式採用とし、奨学金給付を行った。

なお、2023年度の大学院奨学生への奨学金給付金額は、5,728万円となった。

(2)海外留学・活動支援制度

2023年度は大学院奨学生の申請7件に対して、支援費用は総額369万円となった。

3. 奨学生の研修・交流会事業　＜公益事業1＞

奨学生セミナーは奨学生のキャリア支援と交流を目的とするもので、2023年度は全て対面での合宿型セミナー形式で実施し、奨学生相互の研鑽とともに、対面による交流・親睦が図られた。なお、2023年度より1年生セミナーは奨学生同士の交流を深めるために2泊3日とした。

(1)大学院生セミナーの実施

＜実施日＞　2023年9月30日(土)、10月1日(日)
＜場所＞　L stay&grow 南砂町
＜講　師＞　株式会社MIMIGURI代表取締役Co-CEO 安斎 勇樹氏
立教大学経営学部准教授 舘野 泰一氏
＜研修テーマ＞「社会を変える『ビジョン』のつくりかた
－本質的な問題を発見するスキルを磨く」
＜目　的＞　次世代を牽引するリーダーには、複雑な問題の本質を見抜き、理想的な社会の「ビジョン」をデザインする力が求められている。社会を変えるための「ビジョン」を生み出し、それを実現する具体的なアイデアの構想にグループで挑戦する。
＊初日9/30　20時から、「大学院生シンポジウム」をハイブリッド開催
＜参加者＞大学院生49名(対象者61名中)

＜セミナー・アンケート結果＞（回答総数：42名）
［満足度］
・満足　61.9%（26名）・やや満足　33.3%（14名）・普通　4.8%（2名）

（2）大学3年生セミナーの実施

＜実施日＞　2023年5月19日（土）～20日（日）
＜場所＞　L stay&grow 南砂町
＜講　師＞　Will Institute 熊谷 智宏氏、田中 杏奈氏
＜研修テーマ＞「自己分析とキャリア研修」
＜目　的＞　大学3年生がこれから迎える就活や今後の進路に向けて自己分析をはじめとする
自分自身のキャリアデザインについて考えるセミナー。
昨年からOBOGが参加して自分のキャリアを紹介して、学生と交流する。
＜参加者＞　大学3年生78名（対象者94名中）、OBOG16名

＜セミナー・アンケート結果＞（回答総数：71名）
［満足度］
・満足　95.8%（68名）・やや満足　2.8%（2名）・普通　1.4%（1名）

（3）大学2年生セミナーの実施

＜実施日＞　2023年9月9日（土）～10日（日）
＜場所＞　L stay&grow 南砂町
＜講　師＞　Creative Project Base　倉成 英俊氏　＋　電通Bチーム講師3名
＜研修テーマ＞「好きなことを、活かして生きる
－多視点でアイデアを生むクリエーティブ発想by 電通Bチーム－　」
＜目　的＞　各人の本業・学業であるA面に対して個人活動であるB面をキーワードに、自分の
好きなことを仕事に活かしていく方法を紹介するとともに、多視点で面白いアイデアを
生み出す方法を体験する。
＜参加者＞　大学2年生79名（対象者99名中）

＜セミナー満足度　アンケート結果＞（回答総数：59名）
［満足度］
・満足　81.4%（48名）　・やや満足　18.6%（11名）　・やや不満　0%（0名）

（4）大学1年生セミナーの実施

＜実施日＞　2023年9月16日（土）～18日（月）
＜場所＞　L stay&grow 南砂町
＜講　師＞　株式会社 電通　コピーライター　勝浦 雅彦氏
　　電通アイデア創発ユニット　ハツデン　メンバー　3名
＜研修テーマ＞「アイデアは、あなただ！ハツデン2023
　　～世界をちょっと良くする『アイデア』を、自分のアタマから生み出す方法～」
＜目　的＞　社会人になると、自分で課題を見つけて、問いを立てて、解決していくことが大切であり、その過程において最も大切なのは「自分のアイデア」。アイデアを生み出す気持ちよさを体験する。
＜参加者＞　大学1年生95名（対象者103名中）

＜セミナー満足度　アンケート結果＞（回答総数：83名）
［満足度］
・満足　62.7%（52名）　・やや満足　33.7%（28名）　・普通　2.4%（2名）
注）今回はじめて2泊3日のセミナーを試みたが、大学1年生として奨学生同期の交流に有効であると考え、来期は継続とする。

(5)「奨学生の集い2023」の実施

「奨学生の集い」は全奨学生を対象に、奨学生のキャリア支援と相互交流および奨学生と選考委員・事務局との交流を目的に、毎年開催している。内容は前半が講演会、後半は交流会の2部構成となっている。
「奨学生の集い2023」は、11月3日(金・祝)に対面で開催。参加者は、奨学生、大学関係者、及び奨学生OB・OGなど400名が参加して行われた。うち、現役奨学生は377名であった。

＜実施日＞　2023年11月3日(金・祝)
＜会　場＞　東京ドームホテル
＜講　師＞　河江　肖剰　氏（エジプト考古学者、名古屋大学 高等研究院 准教授）
＜テーマ＞『ピラミッド建造から見る国家、社会、人間』
＜参加者＞　奨学生、大学関係者、及び奨学生OB・OGなど400名

(6)修了生交流会の実施

2023年度卒業・修了の大学奨学生と大学院奨学生を対象とした修了生交流会2024を3月に対面立食形式で帝国ホテルにて開催した。
当財団の選考委員など来賓やOB・OGによるメッセ―ジとともに、グループに分かれたコミュニケーションセッションなどで交流を図った。

＜実施日＞　2024年3月16日(土)
＜会　場＞　帝国ホテル
＜参加者＞　2023年度卒業・修了者 95名、OB・OG 14名

（7）オンラインによる「&iコミュニティスペース」を通じた交流事業

2021年12月から奨学生の交流の場である「&iコミュニティスペース」を運営している。2023年度から積極的にコミュニティーリーダー（奨学生希望者）の発案企画を採用し、サイト内のTOPICSに加えて、&i内を超えた「English Chat（英語だけを使ったChat）」「大学院院生シンポジウム（大学院奨学生の研究内容発表を軸として、大学奨学生も参加可のシンポジウム。ハイブリッド開催）」「就活ぶっちゃけトーク」等へと発展した。

・コミュニティリーダー：第4期（2023.4～2023.9）10名、第5期（2023.10～2024.3）9名
〈参考〉第6期（2024.4～2024.9） 9名

【主なコミュニティーリーダー発案による企画】

・コミュニティスペース &iメールマガジン「&you」の配信　現在第25回
・「大学院生シンポジウム」 第1回2023/6/30、第2回9/30
&i内のTOPICSとして「大学院生インタビュー」 2023/2/25にスタートして、現在Vol.6
・「就活ぶっちゃけトーク」第1回2024/3/17

・「English Chat」 第1回2023/6/21、第2回8/23、第3回10/11
・「ミニゲーム交流会」第1回2023/7/12
・&i奨学生企画「奨学生のことばリレー」 2022/12/16にスタートして、現在Vol.16

4. 育英に関する調査研究・情報提供事業　＜公益事業1＞

（1）　会報誌「IKUEI NEWS」の発行

奨学生や高等教育関係者への有益な情報提供を目的に、会報誌「IKUEI NEWS」を4回（4月、7月、10月、1月）発行。2023年度は創立60周年の特別企画として7月号に別冊「リーダーシップを考えよう」を発行した。

＜配布先＞　奨学生（OB、OG含む）、大学関係（教育研究者、学長室、学生部、広報部）、全国の図書館、教育研究機関など
＜発行部数＞各号約4,500部配布

2023年度の年間を通じた企画テーマ：「“ネットワーク”を広げよう」

	発行月	特集テーマ
Vol.102	2023年4月	“ネットワーク”を広げよう① 「つながるコミュニケーション」
Vol.103	2023年7月	“ネットワーク”を広げよう② 「知をつなげ、深める」
別冊	2023年7月	電通育英会創立60周年記念 別冊：リーダーシップを考えよう
Vol.104	2023年10月	“ネットワーク”を広げよう③ 「国を越えてつながる」
Vol.105	2024年1月	“ネットワーク”を広げよう④ 「つながりの価値を再考する」

（2）「第5期リーダー育英塾」および「リーダー育英塾カンファレンス2023」の オンラインセミナー開催

2018年より「トランジション（高大社連携）を意識した教育改革」の実践を担う次世代リーダーを育成することを目的にスタートしたワークショップ「リーダー育英塾」は、「第5期リーダー育英塾」を8月に合宿方式で開催した。
また、「リーダー育英塾」の成果と高大社連携による人材育成の情報共有の場として、「リーダー育英塾カンファレンス2023」を昨年同様オンライン方式にて実施した。

【第5期「リーダー育英塾」概要】
＜日程＞　2023年8月12日（土）～14日（月）＜2泊3日の合宿＞
＜場所＞　L stay&grow 南砂町
＜対象者＞　教育現場を持つ高校または短期大学・大学の関係者
＜参加人数＞37名※
＜講師・ファシリテーター＞
溝上 慎一（桐蔭学園 理事長、桐蔭横浜大学 教授）、中原 淳（立教大学 経営学部 教授）、田中 研之輔（法政大学キャリアデザイン学部・大学院 教授）、田中 聡（立教大学 准教授）、武田 佳子（桐蔭横浜大学 教授／桐蔭学園トランジションセンター　所長）、登本 洋子（東京学芸大学 准教授）、町支 大祐（帝京大学教職大学院 講師）、池田 めぐみ（東京大学 助教）、澁川 幸加（中央大学 特任助教）　※肩書は開催時
※3月下旬より電通育英会ホームページにて募集（事前課題有）を行い、上記講師・ファシリテーターと事務局による選考会にて73名の応募者の中から40名を選出。その後、2名が辞退して参加者38名で開始。途中1名が退出となり修了生は37名。

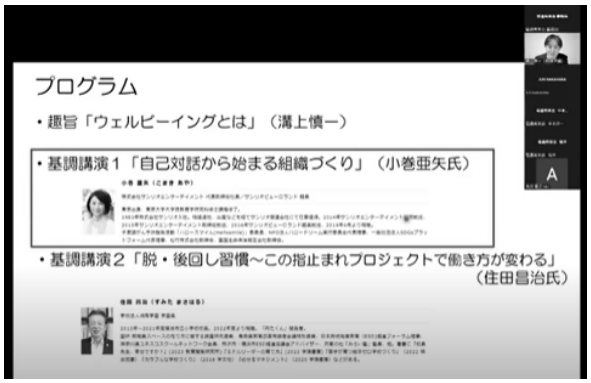
【「リーダー育英塾カンファレンス2023」概要】

＜日　程＞　2023年11月12日（日）　＜オンライン方式＞

＜対象者＞　中学校・高等学校・大学等の教職員および教育関係者
（学校教育に関心を持つ企業人事・経営企画担当者も可）

＜参加人数＞　募集定員200名程度先着順、応募327名、当日参加約190名
＊10月12日、電通育英会HPにて募集開始

＜講師＞溝上 慎一（桐蔭学園 理事長、桐蔭横浜大学 教授）、中原 淳（立教大学 経営学部 教授）、小巻 亜矢（株式会社サンリオエンターテイメント代表取締役社長／サンリオピューロランド 館長）、住田　昌治（学校法人湘南学園 学園長）



(3)調査研究

2023年度は、以下2件の調査研究を実施した。
1. 桐蔭学園(桐蔭学園 理事長／桐蔭横浜大学 教授　溝上慎一氏)と
共同で実施するトランジションに関する以下の調査研究
「主に高校生・大学生・若年成人(主に初期キャリア期の20代社会人)を対象とした
学校から仕事・社会へのトランジション(移行)に関する調査研究」
共同研究者　武田佳子教授(桐蔭横浜大学)／登本洋子准教授(東京学芸大学)
／溝口侑特任講師(桐蔭横浜大学)
2. 立教大学(経営学部　中原淳研究室)と共同で実施するトランジションに関する以下の
調査研究
「学校から仕事・社会へのトランジションに関する研究推進の一環として若年労働者の
初期キャリア形成に関する研究」
共同研究者　畑野快准教授(大阪公立大学)／田中聡准教授(立教大学)
／池田めぐみ助教(東京大学)　　※肩書は2023年3月31日

＜2023年度　奨学金以外の事業別　活動支出額＞

奨学生の集い	大学1年生セミナー	大学2年生セミナー	大学3年生セミナー	大学院生セミナー	修了生交流会	IKUEI NEWS	リーダー育英塾・カンファレンス	調査研究	合計
1,699万円	885万円	605万円	564万円	407万円	737万円	3,952万円	736万円	1,364万円	10,949万円

5. 大学生等を対象とした人材育成活動助成事業　＜公益事業2＞

(1)2023年度助成団体の募集・採用・フォローアップ

学生を対象とした人材育成を目的として活動する大学公認団体・民間NPO団体を主な対象として、2023年度は関東、関西に東北を対象エリアに加えて助成団体の募集を行い、応募55件から、2023年2月に助成団体選考委員会にて書類選考及び面接選考を行い、15団体を採択した(2022年度助成対象で、2023年度も継続採択された団体は3団体)。各団体に対して、100万円を上限に助成を行った。
2023年度助成金支給総額は13,114,885円。

各団体の助成対象活動に関しては、四半期に一度、活動状況について報告書の提出を求め、合わせてオンライン面談を実施することにより、活動の進捗や、助成金の使用状況の確認と共有、活動を進めていく上で生じる助成団体からの相談に敏速に対応することに努めた。
対象活動において、当初の活動計画を大きく変更した団体はなく、順調な活動により1年間の助成期間を終了した。

2023年度助成15団体

団体名	助成対象活動
iGEM-TOYAKU （東京薬科大学公認団体） ＊助成申請額：45万円 ＊最終支払額：38万円	**「理系大学生が始めるサイエンスコミュニケーション活動～合成生物学で科学と社会をつなぐ～」** 科学を学ぶ学生として、科学と社会の距離を縮めるために、イベントの企画、開催を通した、科学を伝えるサイエンスコミュニケーション活動。
近江楽座とよさと快蔵プロジェクト（滋賀県立大学公認団体） ＊2022年度助成団体 ＊助成申請額：70万円 ＊最終支払額：54万円	**「とよさとの空き家改修の現場を生かしたまちづくり人材の育成」** 2022年度助成時に手掛けている物件の改修作業に引き続き取り組む。ワークショップ活動に力を入れ、企画や教育を通して自立し、地域の多くの人たちと協力しながらリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
学生NGO ALPHA （東京外国語大学公認団体） ＊助成申請額：100万円 ＊最終支払額：100万円	**「フィリピン・イロイロ州等における建設活動」** フィリピンの教育支援を目的として、学生メンバーがフィリピンに渡航し、現地の学校側に求められた教室の建設活動及び現地の子供たちを対象に授業を行う。
NPO法人キリンこども応援団 ＊助成申請額：100万円 ＊最終支払額：100万円	**「学生が主体となった不登校の子ども達の 居場所創りと宿泊体験事業」** 教職員志望の大学生が主担当になって、不登校・ひきこもりの子ども達の居場所創りを実施していく。学生が主体的に取り組みつつ、子ども達の気持ちに寄り添った事業となるようサポートする。
認定NPO法人CLACK ＊助成申請額：100万円 ＊最終支払額：100万円	**「ITリーダー育成大学生向けプログラム」** 経済的な困窮、ヤングケアラー、不登校などの状態にある高校生にプログラミングとキャリアについて考える機会を提供する講師を大学生が担い、将来ITリーダーとなる大学生を育成する。
一般社団法人子ども未来塾 ＊助成申請額：100万円 ＊最終支払額：100万円	**「社会教育の視野を持つ児童体験活動推進リーダーの育成」** 学童期（小中学生）での参加体験継続を経て、ひとつ上の段階である「体験活動グループリーダー」（高校生レベル）と体験活動全般の企画運営全般を行う側となる「育成リーダー」（大学生レベル）を養成する。
NPO法人里地里山問題研究所 ＊助成申請額：100万円 ＊最終支払額：100万円	**「農村課題を人呼び込む資源にする！ 逆転の発想で地域活性化を図る人材育成のための耕作 放棄地ワークキャンプ」** 獣害や耕作放棄地の増加、景観や山林の荒廃、伝統行事や祭礼の継続困難等、多様な課題を抱える農村において課題を資源に変換し様々なアイデアで農村に人を呼び込み地域活性化を図る人材育成の為のワークキャンプ。

NPO法人SET ＊助成申請額:100万円 ＊最終支払額:100万円	**「地域の担い手が育ち続ける好循環を創り出す大学生 リーダー育成事業」** 岩手県に住む中高生を対象に、県内外混合の大学生チームによる地域社会の課題を解決するワークショップの企画運営及びプロジェクトの伴走支援を行い、持続可能な形で地域社会の担い手となるリーダーを育成する。
認定NPO法人底上げ ＊助成申請額:100万円 ＊最終支払額:89万円	**「学びのコミュニティを通じた次世代リーダーの 育成事業」** 震災から10年が経過し、東北における次世代リーダー不在が顕在化しており、学びのコミュニティ事業とフィールドワーク事業を実施することで、東北に関わる次世代リーダーの育成と繋がりの強化を目指す。
第39期日韓学生フォーラム ＊助成申請額:80万円 ＊最終支払額:80万円	**「第39期日韓学生フォーラム」** 日本開催のメインフォーラムにおいて、日韓関係からグローバルな社会問題まで幅広い関心層の学生が日本と韓国から一同に会し、英語による学術討論・国際交流を行い、社会に貢献できる人物の育成を目指す。
NPO法人とめタウンネット ＊助成申請額:100万円 ＊最終支払額:100万円	**「登米・高校生による地域経済研究所プロジェクト」** 地元への愛着が未熟なまま登米市を離れる高校生が多いことから、登米市の魅力を活かした地域活性化を牽引する若手リーダーの育成として「登米・高校生による地域経済研究所」を立ち上げ自主的な企画・実施を促す。
日中学生会議実行委員会 ＊2022年度助成団体 ＊助成申請額:50万円 ＊最終支払額:50万円	**「第42回日中学生会議」** 約3週間、中国の5都市を訪問し、討論・フィールドワーク・文化交流を行い、日中両国の学生が共同生活を通して友好を深め相手国及び自国について再考するきっかけとなり日中の懸け橋となる人材を育成する。
NPO法人ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン ＊助成申請額:100万円 ＊最終支払額:100万円	**「ハビタット・ユース・リーダー育成プロジェクト」** 全国学生宿泊研修を実施し、他者の個性を活かしながら自身の個性を発揮できるリーダーを育成する。この研修を経た学生たちがそれぞれの地域に戻り、地域課題を発見しそれに対するアプローチ方法を企画し実施する。
認定NPO法人まなびと ＊助成申請額:100万円 ＊最終支払額:100万円	**「外国人支援を通じた、大学生に対するグローバル 人材育成事業」** 地域に住む外国人に対して、地域の日本人との生の会話を通じて日本語を学びながら人との関わりを得られる日本語教室において活動する大学生が課題と向き合い取り組むことで地域社会に貢献する。
有限責任事業組合 まちとしごと総合研究所 ＊2022年度助成団体 ＊助成申請額:100万円 ＊最終支払額:100万円	**「若者のシビックプライドを育む** **「下京・ローカルグッド・メンバーズ」の育成** **(旧:下京・ソーシャルグッド・レポーターズ)」** 「下京・ローカルグッド・レポーターズ(2期生)」の事業を展開し、1年目の参加学生が次の参加学生を育む循環を生み出し、自立的なローカル人材育成制度の創出を目指す。

学生NGO ALPHAの活動

NPO法人まなびとの活動

（2）2024年度助成団体の募集・採用

2024年度の助成団体は、2023年度に引き続き、「学生を対象とした人材育成」を目的として活動する大学公認団体、NPO団体、任意団体を主な対象として募集を行った。募集対象地域は更なる拡大を検討し、前年度までの関東エリア（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、茨城県、栃木県、群馬県）・関西エリア（大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県）・東北エリア（青森県、岩手県、秋田県、山形県、宮城県、福島県）に追加して、東海エリア（静岡県・愛知県・岐阜県・三重県）と山梨県を2024年度募集地域として新設した。「次世代リーダーの育成・リーダーシップ育成」に資する活動に対して、年間15件（団体）程度、1件（団体）あたり上限金額100万円までの助成として募集を行った。

（1）　応募時期：2023年10月10日（火）～11月30日（木）
財団HPよりオンライン募集とした。
＊前年度以上に多くの対象地域ボランティアセンター、社会福祉協議会、大学などに募集情報を告知。

（2）　応募団体数：67団体（関東34/関西23/東北6/東海4）

（3）　選考スケジュールと経過
2023年12月20日（木）財団事務局による1次書類選考を経て、2024年2月2日（金）2024年度助成団体選考委員会（対面開催）による2次選考を行い、17団体が通過、面接選考へと進んだ。（このうち1団体は面接を辞退）。
2024年2月14日（水）、20日（火）、21日（水）に16団体に対して2名から3名の助成団体選考委員による面接選考（オンライン方式）が行われ、2024年度助成団体として15団体の採用を決定した。 1団体については面接の結果、当財団助成事業の求める活動水準や助成金使用計画について不明瞭な点が見られたことから、落選とした。

（4）　申請額総額： 14,402,800円。

以上